

スポーツ健康学部

学部基礎情報

【理念・目的】

豊かさや利便性を追い求めた 20 世紀、人々は情報技術（IT）を基軸とする高度な文明社会を実現したが、その反面、生活様式が一変し、青少年の体力低下と勤労世代の運動不足と中高年世代の健康不安が個人の人生はもとより、わが国の将来を左右する由々しき事態として認識され、スポーツと健康に対する関心がにわかに高まってきた。

このような国民各層の関心や不安に応えるべく、平成 12 年には「スポーツ振興基本計画」が策定され、子供の体力向上・生涯スポーツ社会の実現・トップアスリートの競技力の向上が、今後の日本社会がめざすべき重点目標として掲げられるにいたった。さらに、同じ平成 12 年には、国民健康づくり運動としての「健康日本 21」が開始され、個人の健康づくり（生活習慣の改善や身体活動・運動など）を公に支援するために、自治体・地域レベルでの取り組みが推進されることになった。しかしながら、わが国では世代や性別を超えた国民的運動としての「スポーツ振興と健康づくり」はまだ緒についたばかりであり、各種施策の実施や環境整備にはそれらを担うことのできる有為な人材の育成が急務である。

スポーツは、人間の身体を動かしたいという根元的な欲求に応えるツールであり、快適性・達成感・連帯感等の精神的充足を促すという意味で、人類が創造した他に代え難い重要な文化活動の一つである。文化としてのスポーツは、心身の健康を増進させるがゆえに、活力に満ちた社会とアメニティ・ライフの創造にとって必須の要件である。特に今世紀に入ってから、スポーツと健康に対するニーズの量的な拡大と質的な高度化に対応するために、新たな「スポーツ健康学」の構築が不可欠となっている。しかるにわが国では、歴史的にみて、身体活動の実践の場は「体育」「スポーツ」分野に限られ、そこでは健康科学との学際的な連携が希薄であった。この現状を打開し、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる人材の育成が大学教育に求められている。このため、本学が設置するスポーツ健康学部は「スポーツ健康学」の体系的な教育と研究を通じて、健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与し、公共の福祉に貢献しようとするものである。

本学では 21 世紀社会に向け、平成 11 年以降、「サステナブルな社会の実現」（人間環境学部）、「ウェルビーイングの実現」（現代福祉学部）、「自分らしく生きる」（キャリアデザイン学部）「人間中心のモノづくり」（デザイン工学部）をそれぞれ設置の理念に掲げる斬新な学部を順次創設し、ウェルビーイング（健康で幸福な暮らし）を核とする高度で多機能な教育研究体系を構築してきた。とくに多摩キャンパスには、平成 12 年に現代福祉学部が開設され、平成 14 年には同学部を基礎とした大学院人間社会研究科（修士課程・博士課程）が開設された。また、平成 17 年には、スポーツ文化の担い手を育成することを目的に、学部横断プログラム「スポーツ・サイエンス・インスティテュート（SSI）」を設置し、スポーツ指導者やスポーツ振興、スポーツビジネス分野において活躍できる人材を育成してきている。そしてスポーツ健康学部は、これらの経験と実績を踏まえ、既存の学問領域を超えたウェルビーイングの教育研究をさらに拡大・深化・発展させることを社会的使命としている。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)

1. スポーツ健康学部は、既存の枠を超えたウェルビーイングの教育研究を発展させることを社会的使命とし、わが国そして地域社会のスポーツ振興と個人の健康づくりに貢献できる人材を養成する。
2. 単なる知識の集積に留まらず、体験学習を重視した実技・実習科目によって、最新の健康科学理論と整合させながら、実社会で十分に活躍できる実践知および実践力を身につけた人材を養成する。
3. スポーツコーチング、ヘルスデザイン、スポーツビジネスに関する知識を独立して学ぶだけでなく、これらを相互に関連づけ幅広い知識を組みあわせることで、自ら問題解決へと導く能力を涵養する。

【ディプロマ・ポリシー】

スポーツ健康学を教育研究する事により、我が国のスポーツ振興と健康づくりに貢献できる人材を養成する。また、知識の集積に留まらず実務能力と研究能力を身につけ、卒業後は社会で十分活躍できる能力を涵養する事を目的としているため下記の能力を備えた学生に学位を授与します。

1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に着けている。
2. スポーツ健康学の学問内容及び方法を理解している。 [知識・理解力]
3. 自ら設定した課題について、スポーツ社会科学・健康科学・スポーツ科学のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。 [思考力・判断力・表現力]

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>4. スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。</p> <p>5. 社会における自分の役割を自覚することができる。 [関心・意欲]</p> <p>6. スポーツ健康学の知を持って地域社会のニーズに応えることができる。</p> <p>7. 生きた文化や生きた社会を創る事に寄与できる。 [態度]</p> <p>8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。 [技能]</p>
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>1. 学部の掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために、5つの科目群を配置し、系統的履修を促します。 [知識・理解力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文社会系の科目から、自然科学系の科目まで、学部の学生として基礎となる幅広い科目を学びます。又、学習に対する姿勢、生涯にわたり学ぶことの必要性を理解し実践できるようにする。[視野形成科目群] ・専門的な科目を履修するためのスポーツ科学や健康科学の基礎となる科目から、スポーツの構成要素とし欠かせないスポーツ社会学まで幅広く科目を配し、健康と社会との関わりを習得できるようにする。[専門基礎科目群] ・コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができる。[専門基幹科目群] ・ヘルスデザインコース(健康の増進)・スポーツビジネスコース(生涯スポーツ社会の実現)・スポーツコーチングコース(スポーツの指導)それぞれの領域を学ぶことができる。[専門科目群] ・3つのコース科目で習得した理論的な知識を集大成した上で、討論や発表を通して、これまで習得した理論を自分の物として具体的な諸問題への対処方法、課題解決方法を身に着ける。[専門演習] <p>2. 学生の学習能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行っています。 [思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年時においては視野形成科目において学習に必要なスキルを学びます。 ・スポーツ健康学の先端的な教育研究を理解するために必要な英語力を養成します。 ・コース共通の科目群を設定し、所属する全学生が「スポーツ健康学」の基礎となる体育学、健康科学、スポーツビジネスの基礎知識を涵養する事を目指します。 <p>3. 各学生が自ら希望・選択する分野でより専門的履修が行えるコース・プログラム別の教育課程を整備し、すべての学生が3コース・プログラムを選択する枠組みを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスデザインコース(健康の増進) ・スポーツビジネスコース(生涯スポーツの実現) ・スポーツコーチングコース(スポーツ指導) [関心・意欲] <p>4. スポーツ健康教育の知見は、豊富な実技・実習を通じた体験学習によって会得します。 [技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定された目標課題にむけ、幅広い視点から、考察を加え、学内外の施設を利用した実技・実習科目を豊富に設定し、多角的に準備された場によって鍛い上げ、社会に貢献できる人材を育成します。 <p>5. 大学教育における小集団教育の重要性を鑑み、1年次から4年次まで演習を開設し、勉学への動機付けや専門性の徹底を図るとともに、仲間意識や教員との人格的接触機会の増大に役立てます。 [態度]</p>
<p>【アドミッション・ポリシー】</p> <p>スポーツ健康学部では、スポーツと健康に幅広い関心を持ち学習(学修)・研究を通じて社会に積極的にかかわる意欲を持つ、下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通じて入学させます。</p> <p>1. 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。 [知識・能力]</p> <p>2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。 [思考力]</p> <p>3. 自分の考えを的確に判断し、伝えることができる。 [判断力・表現力]</p> <p>4. スポーツ、人間、文化にかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

[関心・意欲]

5. 積極的に他者とかかわり、対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。

[主体的、協働的に取り組む態度]

【定員管理の状況】

定員充足率(2017～2021年度)(各年度5月1日現在)

年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍学生数	収容定員充足率
2017	165	184	1.12	660	717	1.09
2018	165	184	1.12	660	735	1.11
2019	165	167	1.01	660	737	1.12
2020	165	173	1.05	660	722	1.09
2021	185	185	1.00	680	721	1.06
5年平均			1.06			1.09

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	改善課題	是正勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	改善課題	是正勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

【求める教員像および教員組織の編成方針】(2018年度自己点検・評価報告書より転記しています)

設置審査の過程で十分に検討されており、完成年度までは以下の教員組織で運営する。
 本学部には、スポーツ科学の研究者をはじめ、わが国を代表するトップアスリートとしての経験を持つ指導者や総合型地域スポーツクラブの推進者、医師、理学療法士、鍼灸師、アスレティックトレーナー等の資格を有する健康科学者など多彩な人材、18名が専任教員として就任している。また、専任教員18名のうち、8名については学内からの移籍者であり、その多くは平成17年度より本学がスポーツ文化の担い手を育成することを目的に開設した、学部横断プログラム「スポーツ・サイエンス・インスティテュート(SSI)」での教育を実践してきた経験者である。なお、専任教員には大学において教育研究経験を実践してきた者、社会的な経験を有する者の他にも、博士の学位を取得している者が4名と医師免許を有する者が2名おり、学部として研究機能を果たすための業績を有する教員が確保されている。期待される教員像として、スポーツ、医科学の知見に秀で、かつ豊富な実践指導経験有し、資格取得に関しても適切な助言を与えることが出来、加えて教学に関わる運営全般にわたり積極果敢に取り組む意欲ある人材を求めている。

【専任教員数および年齢構成一覧】

2021年度専任教員数一覧(2021年5月1日現在)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任 教員数	うち教授数
9	6	1	0	16	15	8

専任教員1人あたりの学生数（2021年5月1日現在）：45.1人

年齢構成一覧（2021年5月1日現在）

年度\年齢	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下
2021	5	5	6	0	0
	31.3%	31.3%	37.5%	0.0%	0.0%

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】（参考）

スポーツ健康学部の自己点検・評価は適切に実施されていると評価できる。基礎教育および専門教育において質の高い教育が提供されている他、少人数制クラスの授業を増やすなど、丁寧できめ細かい指導が行われており、当該学部における教育に対する学生の満足度は本学の全学部の中で上位に位置している。昨年増加した卒業研究数が一昨年とはほぼ同数にまで減少したが、これはCOVID-19の影響もあるとみられ、オンライン授業の工夫により、減少数は最小限に抑えられたと考えられる。学生の国際性の涵養のために、海外から外国人教員を招聘し、オンラインで授業を行ったことは極めて高く評価できる。次年度以降は、コロナで実施できなかった学生の短期留学にも期待したい。また、「総合英語」については、学部横断的なクラス編成にしたことは、学生の視野を広げる上で優れた取組である。教員組織についても、適切な人事が行われており、今後はさらにFD活動を充実させて、研究・教育のますますの質の向上を図ることが期待される。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

基礎教育及び専門教育については、引き続き質の高い教育を提供した。COVID-19の流行が続く中で、実技科目の占める割合が比較的高いことから、感染対策に十分配慮したうえで対面授業の実施を進めた。特に、ヘルスデザインコースに在籍する医療関連資格保有の専任教員は、COVID-19流行以降、感染が広がる中で、何に重視し、どのような感染対策を行うべきかについて、学部としての方針を決定する際に重要な役割を果たすことができた。また、学生に対しては講義の機会ごとに知識や情報提供をするなどきめ細かい対応ができた。COVID-19対策として、秋学期以降は行動方針レベルに応じ、受講者数50人又は100人未満の講義は、対面可とするなどの対策をとることで学生のニーズに応えた。また、学生の利便性を考慮し、食堂で昼食の提供を実施した。2021年度は、短期留学については、3つのプログラムともすべて中止せざるを得なかったが、海外からの2名の外国人講師によるオンライン授業により学生の国際性の涵養性に役立てることができた。2021年度には、短期留学の実施に向けて準備を進めたい。「総合英語」については、オンラインではあるが能力別のクラス編成を継続できた。教員組織については、適切に昇任人事を進めることができた。FD活動については、より充実を図り、研究・教育の質の向上を図っていききたい。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学部は、COVID-19の流行が続く中で、スポーツ健康学部の基礎教育及び専門教育について質の高い教育が継続でき、同学部教育に対する学生の満足度が高い点は評価に値する。特に学部の性格上、比較的高い割合を占める実技科目について感染対策に十分配慮した上で対面授業が実施できたこと、ヘルスデザインコース所属教員の感染症対策に対する専門性を学部教育方針に活かしたこと、大学の行動制限レベルに応じて学生の利便性を汲み取るなど柔軟に学生のニーズに応えたことは評価に値する。2021年度中止となった短期留学の代替措置として、海外からの2名の外国人講師によるオンライン授業が実施できたことは評価できるが、状況を踏まえながら次年度以降は短期留学の実施に向けての準備が期待される。能力別のクラス編成を継続できた「総合英語」と、適切に昇任人事を進めることができた教員組織についても評価できる。FD活動の更なる充実化を通じて、研究・教育の質の向上を図ることが期待される。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

学部の理念・目的の適切性については、学部の教育体制や入学志願者の動機にも大きくかかわるとともに、学部の広報の在り方や入試制度も含めて重要な案件であることから、逐次、コース長会議、学部広報委員会や入試制度検討部会で懸案事項を検討の上、執行部でまとめ、教授会で報告や審議事項として図っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1・2②に対応

はい

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

理念・目的については、スポーツと健康について教員の意識や方向性にズレがないこと、単一学科、教員数 17 名で構成されていることが、共通理解を得やすい点で長所となっている。

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

COVID-19 の拡がりのもと、行動制限のために授業形態がオンラインとなった際には、学部の特質上、理念・目的に沿った教育ができるかどうか課題となり、特にコンタクトスポーツではなおさらの問題がある。この2年間でアクティブラーニングや映像の活用などにより、一定の対応はしてきているものの、学生の満足度にも影響することからさらなる改善の方策を考える必要がある。

【理念・目的の評価】

スポーツ健康学部においては、学部の理念・目的が大学の理念・目的を踏まえて適切に設定されている。学部の理念・目的の適切性も学部内の協議を経て検証が行われている。学部の理念・目的は学則等に明示されており、教職員及び学生に周知するとともに、大学のホームページに掲載し、社会に対して広く公表されている。科目によっては対面授業の必要性が高い同学部にとって、COVID-19 の拡がりのもと、授業形態がオンラインにならざるを得なかった際には、教育の理念・目的に沿った教育の実施は大きな課題であったとうかがわれるが、この2年間アクティブラーニングや映像の活動などによる対応が確認できた。

2 内部質保証

（1）点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

はい
<p>【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成：各コースから選出された3名のコース長。 ・昨年度は、コロナ禍にあったことから、5月及び3月にメールで審議。 ・質保証委員会としては、自己点検・自己評価報告書に関する内容の検討が主な業務。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>COVID-19への対応・対策については、授業実施方法など、教育を進める上で最重要課題であり迅速性が求められること、及び教員数が16名（2021年10月から17名）と少人数であることから、大学全体の方針や多摩4学部長連絡会での議論をもとに、執行部において事前に議論のうえ、教授会メンバー全員で審議を行うこととした。</p> <p>その際、入試制度やCOVID-19対策、教育内容などに関わる案件については、3名のコース長により逐次検討を行っている。</p> <p>ヘルスデザインコースの教員には、医療関連資格保有の専任教員が複数名いるため、新型コロナウイルス発生後の対応から始まって、感染が広がる中で何を重視して対応すべきか、教授会での議論の際に知識や情報提供をするなどきめ細かい対応ができた。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
--

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>ヘルスデザインコースの教員には、医療関連資格保有の専任教員が複数名いるため、新型コロナウイルス発生後の対応から始まって、感染が広がる中で何を重視して対応すべきか、教授会での議論の際に知識や情報提供をするなどきめ細かい対応ができた。</p>

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>人数が少ないことにより、過重負担となりがちであることから、合理的な対策が必要である。</p>

【内部質保証の評価】

<p>スポーツ健康学部の質保証委員会は、学部内の各コースから選出された3名のコース長により構成され、2021年度5月及び3月にメールにて自己点検・自己評価に関する事項について協議し、その結果が、教授会において承認されている。入試制度やCOVID-19対策、教育内容などに関わる案件について、3名のコース長により逐次検討が行われたこと、医療関連資格保有の専任教員と連携しながらCOVID-19対策を検討し、教授会での議論の際に知識や情報提供をするなどきめ細かい対応ができたことも特筆に値する。</p>

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、毎年春学期開始時に履修の手引きに掲載し学生に周知するとともに、ホームページでも公表している。※冊子名称やホームページURL等。
- ・2021年度スポーツ健康学部履修の手引き
- ・2021年度スポーツ健康学部パンフレット
- ・URL：<https://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/index.html>

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度3.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

4月に執行部が昨年度の実施内容を自己点検評価シートに基づき素案をまとめ、5月初めに質保証委員会が素案を検討し、5月中旬の教授会に報告し再度検証し議論するプロセスをとった。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度スポーツ健康学部第3回教授会資料

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021年度1.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

スポーツ健康学部は、学則上、総合教育科目と専門教育科目から構成されている。さらに、総合教育科目は外国語科目と視野形成科目に、専門教育科目は、専門基礎科目、専門基幹科目、専門科目、専門演習科目と段階的に用意されている。入学した学生全員が豊かな人間形成に基づく土壌の上に、体育学や健康学の基礎を中心にしっかりと根を張り、幹を育て、自分の興味・関心に合わせた特徴的な枝に自分だけの花実をつけるための4年間を過ごしてもらえるようカリキュラムを構成している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・2021年度スポーツ健康学部 履修の手引き
- ・2021年度スポーツ健康学部パンフレット

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度1.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>学習に対する姿勢や生涯に亘って学ぶことの必要性を学ぶ「視野形成科目」や多彩な専門家のもとで学ぶ「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門科目」「専門演習」の段階的かつ体系的な学びを通して、一貫した学習を実践する。特に演習科目においては、徹底した少人数教育を実践し、1年次の「スポーツ健康学入門」で大学生としての基本的な学び方や学習への動機づけを理解し、2年次以降の「専門演習」で専門性を身につける。また当学部は2年次において「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。更に専任教員のゼミナールに参加することで高い専門分野の学問を学ぶことができる体制下にある。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>・2021年度スポーツ健康学部 履修の手引き</p>

3.3③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。2021年度1.1③に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「人間とスポーツ」「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生にとっての基礎となる幅広い科目を用意している。また、1年次に必修として用意されている「スポーツ健康学入門」では、大学生活への適応力を身につける。専門的な科目を受講する前提として、スポーツ科学及び健康科学分野の基礎となる「スポーツ運動学 I」「機能解剖学」などの科目から、「スポーツ哲学」「スポーツマネジメント論」などの科目まで幅広く配し、健康科学と社会との関わりを習得できるよう配慮している。コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができるよう配慮している。2021年度からは、ドイツ語をはじめとしてフランス語など諸語の充実が図られた。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>・2021年度スポーツ健康学部 履修の手引き ・URL: (https://www.hosei.ac.jp/sports/)</p>

3.3④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021年度1.1④に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として「スポーツ健康学入門」を初年次春学期の必修科目とし、栄養教育、飲酒・薬物の健康影響の理解から始まり、リテラシー（含む図書館利用）、プレゼンテーション、ライティング（レポート）の方法など大学の専門科目を履修するために必要な技術、さらに留学や大学院進学に関する情報まで提供している。また、付属校あるいは要請のあった高校へは教員を派遣し、模擬授業を通し大学講義の一部を提供している。さらに、付属校からの入学生に対しては、事前オリエンテーションにより、事前及び事後の課題に取り組ませ、入学に向けての準備を行った。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>・2020年度スポーツ健康学部第15回教授会資料 ・2021年度スポーツ健康学部第15回教授会資料</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.3⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

外国人客員教員（短期）を招いての授業については、コロナ禍の中ではあったが、依頼した2名によりアメリカおよびドイツからオンラインにより開講することができた。コロナ禍を考慮し、学生の安全のため「スポーツ健康学海外演習」「スポーツビジネス海外演習」「スポーツコーチング海外演習」は中止せざるを得なかった。ERPについては情報提供し受講者もいる。また、グローバルオープン科目を開設し運営している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習支援システムによる授業開講のお知らせ
- ・2021年度スポーツ健康学部第9回教授会資料

3.3⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑥に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育としては、1年次に行う「スポーツとキャリア形成」を必修科目として用意している。また、スポーツ健康学入門においても各コースの紹介、留学、大学院への進学などをテーマとしている。さらに、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・スポーツ健康学部シラバス
- ・2021年度スポーツ健康学部履修の手引き

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。
- ・各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度スポーツ健康学部第15回教授会資料

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行し

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

ながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。年間 GPA が 1.0 以下の学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021 年度スポーツ健康学部履修の手引き
- ・2021 年度スポーツ健康学部第 4 回教授会資料
- ・2022 年度スポーツ健康学部第 2 回教授会資料

3.4③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021 年度 1.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

シラバス上で、授業前の予習時間をどの程度割くか、また授業後には復習の目的で、授業ごとに課題レポートの提出を求めている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・スポーツ健康学部各科目シラバス

3.4④年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018 年度 3.4④に対応

はい

【履修登録単位数の上限設定】※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

年間 42 単位（半期 22 単位までを目安とする）の上限を設定している。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

学生が再履修科目を選択すると年間 49 単位までと設定している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021 年度スポーツ健康学部履修の手引き

3.4⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021 年度 1.2④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

・学習支援システム上で、授業内容に関連した課題を授業中などに課し、オンラインでも双方向の意見交換を行うなど、学習成果の可視化に努める。

・実習科目においては、オンライン授業であっても、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をしたりするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。

・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。

・学外での実習・演習科目に対して、学内での事前学習の時間を十分に設けている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各科目における学習支援システム課題の設定

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.4⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021年度

1.2⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※どのような配慮が行われているかを記入。

「総合英語」では、能力別に1クラス20～25名程度、7クラスで実施している。「専門演習」では、1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。機材を必要とする実習あるいは実験科目では、学習の効率化のために事前に選抜し履修人数を調整している。スポーツ健康学部では、大講義室に収容できる人数も限られている。さらに、コロナ禍においては隣席との間を一つ空けるなどの工夫が求められることから、131人を超える授業ではハイフレックスにより二部屋で同時進行による授業形態をとるなどの工夫をしている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特にないが、事務課で1授業あたりの人数は把握できており、事務課と連携しながら対応している。

3.4⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑦に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・シラバスは、教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするよう作成している。
- ・シラバスが作成基準を満たしているかのチェック項目を作成し、総合科目については、執行部が、専門科目については教務委員会（各コース長）が、教職科目については教職担当教員で分担し、全教科のシラバスを調査し修正依頼をしている。
- ・各コース長及び教職担当教員・学部独自資格科目担当教員及び執行部のシラバスチェック報告を、執行部で共有し教授会で確認し承認を得ている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2022年度第3回教授会資料

3.4⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑧に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・スポーツ、健康のジャンルは現代社会に密接に関連していることから、実際の授業ではタイムリーなテーマを取り上げることもあるが、最終的には授業全体として目的に合致しているか否かを判断し、授業改善アンケート等を参考に、より適切な内容となるよう各教員が取り組んでいる。
- ・教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、資格ごとに必要な内容が授業に盛り込まれているか否かの確認を行っている。
- ・また教員相互授業参観を行い、授業内容の確認を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第3者によるシラバスチェック
- ・2021年度スポーツ健康学部第2回教授会資料
- ・2022年度スポーツ健康学部第3回教授会資料

3.4⑨通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度

1.2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

行動方針レベルに応じ、実習科目も含めて Zoom、Google meet などを用い、オンラインで授業に取り組んでいる。学生の理解度を把握するため、学習支援システムによりリアクションペーパー、課題レポートで評価を行っている。学習支援システム上で、授業内容に関連した課題を授業中などに課し、オンラインでも双方向の意見交換を行うなど、学習成果の可視化に努めている。学生モニター制度（2021年12月14日実施）により COVID-19 パンデミックによる教育方法の変更によるカリキュラム内容、学習方法・支援および成果について学生の意見を聴取することで点検している。特に、今回はオンライン授業、大学の感染症対策について、コロナ禍による日常生活への影響、語学授業、実習授業などについて焦点化した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業における学習支援システムでの授業形態及びレポート提出のお知らせ及び課題提出の連絡
- ・2021年度スポーツ健康学部第13回教授会資料

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。

- ・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定の記載に基づいて適切に行っている。
- ・教授会において、単位認定の報告等で相互確認をしている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料

3.5②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。2021年度1.3②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

教務委員（各コース長）によるシラバスチェックにより、各教員の成績評価の方法を整合させている。各教員に科目毎のGPAを確認するように促し、成績評価の偏りを減らすように努めている。学期毎の単位認定の際に、問題の有無について確認している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料
- ・2022年度スポーツ健康学部第3回教授会資料

3.5③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・1年生から3年生については、取得を希望する資格の調査を実施。
- ・就職情報についてはキャリアセンターからの報告を得て教員に周知。
- ・学部独自資格科目や教職科目を受講した学生の就職先については、ゼミ担当教員や資格担当教員からの報告を依頼。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度スポーツ健康学部第6回教授会資料

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の種類等】※箇条書きで記入。
・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計し、その情報を教授会において共有している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料

3.6②学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
初年次教育、ELCAテスト、「習熟度テスト」などを用いて、学部での学びを進めるための基礎的な知識や技能が身についているかを確認した。なお、2020年度の習熟度テストはコロナ禍のため中止したが、2021年度は実施できた。知識を実践知へ移行する学修成果については、教員免許およびスポーツ・健康関連の資格希望者数で確認した。また、「専門演習Ⅲ」の希望者率、「卒業研究」の実施者率については、コース毎の状況を把握し、教授会で報告することにより課題を共有した。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第14回教授会資料
・2022年度スポーツ健康学部第3回教授会資料

3.6③学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
初年次教育の「スポーツ健康学入門」では、全員に向けての講義内容の学修成果を毎回のレポートやテスト（リアクションペーパーに相当）によって確認している。ELCAテストは、結果を学生にフィードバックするとともに、教授会でも得点の分布や変動を確認した。「習熟度テスト」を実施し、学年ごとの平均得点、自分の得点と順位を学生にフィードバックしている。
・海外留学者、教員免許取得者、スポーツ・健康関連の資格取得者、卒業研究実施者を教授会で確認している。また、卒業研究の発表会によって学修成果を確認している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料
・2021年度卒論発表会抄録集

3.6④学習成果を可視化していますか。2021年度1.4④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等
学年別にGPAの推移を教授会で共有し、コースごとのGPAから学習成果を確認している。また最終的な成果として卒業研究発表会での優秀発表者を選出して表彰した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第15回教授会資料

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
・学生の学年別の成績経過についてGPAを一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。
・特に問題と思われる学生に対してはゼミ担当教員あるいは執行部教員が個別指導を実施している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【利用方法】※箇条書きで記入。
・授業改善アンケートの結果、特に自由に記載された学生の意見は執行部が確認し、教授会で共有している。
・2021年度は、学生モニター制度を活用し、課題の抽出を行い、教授会で報告し、検討した。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第11、12、14回教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
授業アンケートでは、学生の満足度は概して高かった。これは、少人数学部であること、実技科目では感染対策を実施しながら、できる限りの対面授業をするなど、きめ細かい対応が背景にあると考えられる。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
実技科目のオンライン授業による効果については、今後も検証していく必要がある。

【教育課程・学習成果の評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

スポーツ健康学部では、修得すべき学習成果、その達成のための諸要件を明示した学位授与方針が適切に設定されている。また、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針が適切に設定されている。さらに、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が学部履修の手引き・ホームページ等において周知・公表されている。それらの適切性と連関性について、2021年度5月の質保証委員会と学部教授会で適切に検証が行われていると評価できる。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

スポーツ健康学部では、総合教育科目と専門教育科目から構成される教育課程の編成を通じて教育内容が適切に提供されている。さらに、教育内容は体育学や健康学について学生が涵養すべき能力を段階的且つ系統的に習得できるようカリキュラムの順次性と系統性が確保されている。また、教育課程の編成には幅広い科目が用意され学際的な領域を学ぶことができるよう配慮されており、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されている。初年次教育では「スポーツ健康学入門」を必修科目として配置し今後の学習のための情報を提供しており、高大接続については、付属校や要請のあった高校へ教員を派遣し模擬授業を提供している。COVID-19の影響で中止となった「海外演習」の代替措置として2名の外国人客員教員(短期)を招いてオンライン授業を行ったことは学生の国際性を涵養するための努力と評価できる。キャリア教育については、1年次の「スポーツとキャリア形成」を必修科目とし、「スポーツ健康学入門」においても各コースの紹介、留学、大学院への進学などをテーマとしている点、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている点で大変優れている。

<③教育方法に関すること (3.4) >

スポーツ健康学部の履修指導や学習指導は、学年毎の「新年度ガイダンス」、「秋学期終了ガイダンス」や「専門演習」、各教員のオフィスアワー、成績不振者の面談などを通じて適切に行われていると評価できる。また、各種資格について個別の「資格ガイダンス」を行っている取り組みは特筆に値する。学習時間を確保するための工夫、履修登録単位数の上限の設定、授業形態に応じた学生数の配慮など、教育方法に関する対応も適切に行われている。実習科目や演習科目では学生主体の学習ができるよう効果的な授業形態の導入に取り組まれている。シラバスの適切性については、教務委員会によるシラバスチェックと教授会での報告を通じて、シラバスに沿った教育については、授業改善アンケートや教員相互授業参観を通じてそれぞれ検証が行われている。行動制限レベルに応じてオンランと学習支援システムを利用し双方向学習に努めるとともに、学生モニター制度の利用により学生の意見を聴取することでCOVID-19の学習への影響について点検が行われている。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >

スポーツ健康学部の成績評価と単位認定は、各教員がシラバスに記載された成績判定基準に基づいて行われ、教授会において単位認定の報告等で総合確認が行われている。教務委員によるシラバスチェックにより、各教員の成績評価の方法を整合させ、成績評価の偏りを減らすように努めている点は評価できる。学生の就職状況は、キャリアセンターからの報告を得て、教員に周知されている。成績分布、科目毎の不合格者、進級状況に関するデータを教授会で共有し、学習成果の検証が行われている。特に初年次教育の「スポーツ健康学入門」、ELCAテスト、「習熟度テスト」などを用いて、学部での学びを進めるための基礎的な知識や技能が身につけているかを確認し、学習成果を測定するための指標として用いる取り組みは高く評価できる。また、海外留学生、教員免許取得者、スポーツ・健康関連の資格取得者、卒業研究実施者を教授会で確認しており、卒業研究の発表会によって学修成果が把握・確認されている。学年別・コース別のGPAの推移が教授会で共有され、学習成果の可視化とその検証が行われている。学生による授業改善アンケートと学生モニター制度利用の結果は、教授会で共有、組織的に利用されていると評価できる。

4 学生の受け入れ**(1) 点検・評価項目における現状****4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。**

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度 4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

学者選抜をどのように公正に実施していますか。 **新規**

※取り組み概要を記入。
入試委員会のデータ及び入試センターとの意見交換を経て、執行部が課題を抽出している。特に、コロナ禍で受験生の動向に対する見通しが必ずしも十分できない中では、入試センターが感じとっている受験生の空気感はとても重要と考えている。そのうえで、質を担保できる入学者選抜の在り方について、執行部及び学部内で設けている入試制度検討部会で検討を進めている。入学者選抜については、A0 入試も含め公正な実施に向けて教授会で共通理解を図っている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度スポーツ健康学部第 11、12、14 回教授会資料

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 **2018 年度 4.2①に対応**

はい
※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。
2020 年度までは定員 165 名であったが、2021 年度は 20 名の定員増としている。そのうえで、2021 年度は定員 185 名に対し入学者 185 名（超過率 1.00%）、2022 年度は 182 名（超過率 0.984%）であり、収容定員を充足している状態を維持している。コロナ禍により、入学志願者の動向が読みにくい状況下ではあるが、質の低下をもたらすことのないよう入試制度全般について見直しを図るべく、スポーツ健康学部入試制度検討部会を立ち上げている。今後も求める学生像・修得しておくべき知識等の内容・水準について学部パンフレットにより周知を計りながら継続していきたい。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度スポーツ健康学部第 11、12、14 回教授会資料

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。 **2018 年度 4.3①に対応**

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
入試経路別に成績 GPA を集計し、この結果を教授会で共有している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度スポーツ健康学部第 15 回教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
入試経路別の学生の単年度及び累積 GPA を比較・検討することで、それぞれの入試経路に対する対応策や、入学後の修学指導に反映させることが可能である。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

他大学のスポーツ健康系学部と当学部との入学志願者の動向を注視し、入試経路ごとの入学定員の在り方について検討を進める必要がある。

【学生の受け入れの評価】

スポーツ健康学部では、学生の受け入れ方針を明確に定め、学部パンフレット等によって広く公表している。スポーツ健康学部の入学定員充足率は、直近5年間、直近3年間の平均がそれぞれ1.06、1.02で、単年度基準では2021年度、2021年度それぞれ1.0、0.984となり、入学定員の超過・未充足に対し適切に対応されている。入試経路別に学生のGPAを集計し教授会で共有しているが、その結果を基に入学後の修学指導や学生募集・入学者選抜の改善や向上に繋げることが望まれる。入試制度全般の見直しのためのスポーツ健康学部入試制度検討部会を立ち上げているが、その成果が期待される。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。2018年度5.1①に対応

はい

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用（昇格）に関する基準を設けている。

5.1②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1②に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・学部執行部は、学部長、教授会主任、教授会副主任で構成している。
 ・学部内委員会としてコース長会議、教務委員会、質保証委員会、学部広報委員会など入試制度検討部会を含む9つの委員会を設置している。

【明示方法】※箇条書きで記入。

・教授会資料各種委員会一覧表で明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・スポーツ健康学部教授会規程
 ・2021年度スポーツ健康学部第14、15回教授会資料
 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準
 ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい

※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

学部設置認可に至る過程で教員それぞれが担当科目について審査を受け、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が配置され教員組織が編成されている。2021年度は新規教員1名（女性）が10月に赴任している。教職課程を担当できる教員を2名配置した一方で、ビジネスコースの教員が4名であり、他コースと不均衡となっている。この問題については、今後、時期をみながら調整していく予定である。外国人教員1名（スポーツコーチングコース）である。女性教員はスポーツビジネスコースでは4名中1名、スポーツコーチングコースでは7名中1名、ヘルスデザインコースは6名であるが女性教員はいない。教員の男女比については、学生の男女比にも配慮する必要がある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準

5.2②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。2018年度5.2②に対応

はい
<p>※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。</p> <p>2016年度に開設した大学院(スポーツ健康学研究科)は学部で教育したスポーツ健康学を深化するため、学部の教員のほとんどが関わっている。大学院担当の専任教員は、他学部にもまたがること、大学院との接続の観点から、学部の授業やゼミも担当できるようにしている。今後、学部教育と大学院教員がさらなる連携を進めるべく教員組織を改編していく。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

5.2③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。2018年度5.2③に対応

はい
<p>【特記事項】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>教員の採用・昇格の基準等については、独自に内規を策定し、教員の資格要件をふまえて、求める能力、資質等を明らかにしている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学部教授会内規 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準

5.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

5.3①各種規程は整備されていますか。2018年度5.3①に対応

はい
<p>【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準が整備されている。 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準

5.3②規程の運用は適切に行われていますか。2018年度5.3②に対応

はい
<p>【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。 ・2021年度の体制に備えて講師1名を准教授承認の人事を決定した。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.4①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A: 従来通り効果的に取り組むことができた
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <p>【2020年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。 大学全体で行うFD活動に関する研修会については、教授会の場で参加を促した。 学部全体で取り組むFD活動に関する講演会については、従来兼任教員とのFD活動推進の一環として9月に開催しているが、コロナ禍に配慮し、本年度は中止した。 各授業における授業参観は教員ごとで実施した。
【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> 学部全体でのFD研修会は、コロナ禍のため、中止。 各授業における授業参観は教員ごとで実施した。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> 授業相互参観実績報告書

5.4②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
<p>毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行している。総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況を教授会等で共有している。多摩将来計画委員会のうち「スポーツ・メディアプラットフォーム研究プロジェクト」は、スポーツ健康学部のかかわるスポーツや法政クラブなど多摩キャンパスで行われるスポーツ全般（多摩スポーツと称す）の活動と地域社会などによる「混ざりあう場」を提供することで、相互のウェルビーイングの向上を目指すことを目標としており、本学部教員を委員長とするあわせて4名の学部教員が関わっていることから、本学部としても、教授会を通じた積極的に関わるなど意見交換を図っている。</p>
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
多摩将来計画委員会「スポーツ・メディアプラットフォーム」プロジェクト

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
スポーツ健康学部として、スポーツにおける多摩地域に根差した社会貢献は、さらに積極的に関わっていくことで価値向上が期待される。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
コロナ禍での活動の在り方や交通の便などは課題と考えられる。

【教員・教員組織の評価】

<p>スポーツ健康学部の教員の採用、昇格等について、学部の教員組織の編制方針に基づき、教員に求められる能力・資質等が明らかにされている。組織的な教育を実施する上で要な役割分担、責任の所在を明確化した執行部の構成や学部内委</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

員会が明確にされている。学部のカリキュラムに沿ってコース毎に教員が配置され、教員組織が適切に編制されている。学部の教員のほとんどが大学院教育にも関わっているが学部教育と大学院教員がさらなる連携を進めるべく教員組織を改編していくことが期待される。専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう教員の募集や任免・昇格に関わる基準が整備されており、適切に運用されている。大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得るプロセスでFD活動が適切に行われている。毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行し、教員の研究成果が公表されている他、総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況が教授会等で報告されている点は高い評価に値する。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業・卒業保留・留年者の状況は事務課で把握し、執行部で問題の把握のうえ、教授会で共通理解を図っている。 ・休・退学者についても同様の流れで、執行部で課題を抽出し、教授会で審議事項とする。その際、理由から問題点を共有するとともに、対応策として執行部を中心としつつ、ゼミ担当教員など学生に近い立場の教員から個別に問題点解消のための対応をしている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度スポーツ健康学部第15回教授会資料

6.1②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。</p> <p>1年生は25名前後のクラス分けを行いチューターにより修学支援を実施している。2～4年生は所属しているゼミの教員が修学支援を担当している。また、専任教員はオフィスアワーを設け、適宜学生の質問などに対応している。さらに、資格取得のための試験対策補習授業を実施した。</p> <p>専門演習（ゼミナール）は、2年次から配属されるため、募集要項を作成するとともに、学生が主体となってオープンゼミ、ゼミ相談会、ゼミ説明会を開催している。これらは、学生が主体となって活動しており、学生目線でゼミの有用性についてアピールするものである。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度スポーツ健康学部履修の手引き ・スポーツ健康学部専門演習（ゼミナール）募集要項2022

6.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度6.1③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績が不振な学生については、科目担当教員から事務を通して執行部に報告することとし、修学指導を個別に対応している。 ・全般的に成績不振な学生はゼミ担当教員が、ゼミに所属していない学生は執行部が担当している。 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料</p>

6.1④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018年度6.1④に対応

<p>A：従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>留学生推薦入試で2021年度には留学生が3名入学している。これに対し事前情報をスポーツ健康学入門のゼミ担当教員に連絡し、配慮を依頼している。外国人留学生入試は、開始間もないこと、コロナという事情もあり、募集枠に対して志望者は少ないことが課題である。一方で、質の担保も重要であることから、こうした点を総合的に考慮し、今後の啓発の在り方について取り組んでいく必要がある。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2021年度スポーツ健康学部第1回教授会資料</p>

6.1⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1⑤に対応

<p>A：従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>学生の相談窓口としては事務、科目担当教員、ゼミ担当教員、執行部など窓口を特定せず、話やすい人に相談できる体制をとっている。相談された教職員は、執行部に報告し、執行部会議で検討し教授会で対応を依頼するシステムになっている。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・個別案件については、プライバシー配慮のため、根拠資料はないが、相談により問題を乗り越えた事例はある。</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>学生と教員との距離感は、少人数学部であること、学部棟が一棟でまとまっており、研究室と講義室が距離的に極めて近いことなどから、相談しやすい環境にある。また、実技・実習・演習科目は少人数であることも一つの要素である。</p>

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>最大収容人数の部屋では、コロナ禍の場合131名しか収容できず、ハイフレック対応により2部屋同時進行となる。このため、片方の部屋は教員不在となってしまう。TAやSAによる授業アシスタントが欠かせない。2021年度から学生数が従来に比し、20名増となっているが、今後、2024年にかけて毎年20名の増加が予想され、最終的には80名の増加となる。現在でも講義室や食堂のキャパシティは越えつつあり、学生からの不満にもつながっている。このため、施設・設備についても対応策を考えておく必要がある。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【学生支援の評価】

スポーツ健康学部の退学・留年等については事務課で把握し、その情報は教授会で共有されている。学生の修学支援については、1年生はクラス分けによるチューター、2～4年生は所属ゼミ教員により、学年毎に適切に実施されており、成績不振学生への対応などもゼミ担当教員や執行部により適切に実施されている。留学生推薦入試で2021年度には留学生が3名入学しているが、これに対し事前情報をスポーツ健康学入門のゼミ担当教員に連絡し、配慮が依頼されていることは評価に値する。学生の生活相談については、事務、科目担当教員、ゼミ担当教員、執行部など多様な窓口を設け、相談できる体制がとられている。2021年度から入学定員・入学者数が20名増となり、施設・設備についての対応策も望まれる。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーター等を配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度7.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※教育研究支援体制の概要を記入。
従来通り、教授会において年度当初に各授業で必要とするTA、授業支援アシスタントの募集を行い、希望通りの人員配置ができています。特に、コロナ禍にあることから、オンライン授業や対面授業いずれにおいても、TAや授業支援アシスタントが必要不可欠となるケースが増えている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第8、15回教授会資料

7.1②学部（学科）として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※取り組みの概要を記入。
教室の机は、横に1席毎とし、アクリル板による間仕切りを行った。教壇にもアクリル板を設置している。また、すべての講義室及びセミナールームに送風ファンを設置するとともに、換気に配慮するよう、教員に依頼している。一部屋当たりの収容人数を規定し、超える場合にはハイフレックス対応として二部屋で授業を進めている。フットサルコートやフィットネススタジオの利用規定については、COVID-19対策として、医学系教員からの医学的根拠に基づく意見を踏まえ、使用規則を厳格化した。2021年度春学期から食堂での昼食提供を再開したが、感染防止のためアクリル板による間仕切りを設置するとともに、3限終了後には毎日、黙食等による感染防止対策に関わるアナウンスを実施した。情報カフェテリアや資料室においても間仕切りを設置した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度スポーツ健康学部第15回教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させるために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
ヘルスデザインコースの医療関連教員による COVID-19 対策としての助言は、感染対策として極めて有用であり、信頼性が高い点で長所と言える。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
学生の感染対策に関する行動に対しては、繰り返しの情報提供が必須であるが、効果の持続性について検討していく必要がある。

【教育研究等環境の評価】

スポーツ健康学部では、必修科目について担当教員が必要と判断した場合、教授会の承認を得て、TA、授業支援アシスタントを配備するなど、教員の教育研究支援体制が適切に整備されていると評価できる。教室内のアクリル板や送風ファンの設置、一部屋当たりの収容人数の規定、ハイフレックス対応として二部屋での授業実施など、COVID-19 への対応・対策が適切に行われた。またフットサルコートやフィットネススタジオの利用規定については、COVID-19 対策として、医学系教員からの医学的根拠に基づく意見を踏まえ、使用規則を厳格化したことは特筆に値する。
--

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 8.1①に

対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
<p>教員による学外組織との連携協力による連携協力による教育研究の推進及び成果の公表の目的のため、毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行している。</p> <p>従来より、総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」の構成メンバーとして複数名の教員が積極的に参画しており、教員からの活動状況を教授会等で共有している。また、法政クラブの事業には補助員として本学部学生が積極的に関わっており社会貢献の意識の醸成に役立っている。</p> <p>2021 年度課題解決型フィールドワーク for SDGs として、本学部教員による「すべての「人馬」に健康と福祉を～引退競走馬のリトレーニングを人と馬の幸福に繋ぐ取り組み～」が採択され、3 月にスプリングセッションとして実施された。JRA 日本中央競馬会や体育会馬術部などと連携した取り組みである。講義とフィールドワークを通じて、引退競走馬のリホーミング、リトレーニング、パラ馬術について理解し、人馬のウェルビーイングという福祉本来の理念と多様性の新たな展望を学ぶことにより、そこにある課題を明確化し、人馬の健康と福祉を繋ぎ合わせ、相乗効果をもたらす手立ての基礎を作り出すことを目的とするものである。</p> <p>【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度スポーツ健康学部第 1 回教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>スポーツ健康学部教員ならではの、人馬のウェルビーイングを目指した本取組は、他にはない取り組みとして SDGs 課題解決型フィールドワークとしても優れた取り組みと考えている。</p> <p>法政クラブの取組は本学部ならではの取組である。</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
コロナ禍における取組については、どのように困難を乗り越えるかが課題である。

【社会貢献・社会連携の評価】

スポーツ健康学部では、教員による学外組織との連携協力による教育研究の推進及び成果の公表の目的のため、毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行するなど、学部の教育研究活動の特徴を活かした社会貢献活動が行われていると評価できる。総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」の構成メンバーとして複数名の教員が積極的に参画しており、教員からの活動状況を教授会等で共有している点は大変優れている。法政クラブの事業には補助員として同学部学生が積極的に関わっており社会貢献の意識の醸成に役立っていると評価できる。2021年度課題解決型フィールドワーク for SDGs として、同学部教員提案のプロジェクトが採択され、2022年3月にJRA 日本中央競馬会や体育会馬術部などと連携した取り組みとして実施されたことは高く評価できる。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度9.1①に対応

はい
※概要を記入。
学部長、主任、副主任で執行部を組織している。また、学部全教員により教授会が組織されている。各コースにはコース長を設け、執行部とコース長で教務委員会を設けている。なお、学部長の任期は2年で、任期毎に規則に沿って選挙を行っている。さらに、教授会規程に基づき、必要に応じて学部内委員会を整備し規定に基づく運営が行われている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・スポーツ健康学部教授会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
構成人員が17名であることから、運営についても共通理解を得やすい。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
長所が短所ともなり、少人数で多くの役職を負担する必要がある。特に入試関係や学生関係など大学や多摩キャンパスとして学部に割り当てられる役割分担もあるため、小人数学部として考慮されているとはいえ、各教員にかかる負荷は依然として大きい。

【大学運営・財務の評価】

スポーツ健康学部の運営については、学部長、主任、副主任によって執行部が組織され、その執行部と各コース長による教務委員会が設置されている。学部全教員により組織されている教授会においては、教授会内規を整備し、規程に則っ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

た運営が適切に行われていると評価できる。少人数学部であるため、教員の入試・学生関連業務負担や学部横断の役割分担に負荷が大きい点が認識されているが、適切な対応が望まれる。

Ⅲ 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	2018 年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の 1 年生が卒業年度を迎える 2021 年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をととして創造性教育を推進する。	
	年度目標	コロナ禍を踏まえ、学生及び教員間の意思疎通を図り、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修を促す。専門演習Ⅰの履修は 1 年次に希望を出すので 1 年次開講の「スポーツ健康学入門」の各コースの教育・研究の紹介時に履修のメリットが理解できるようにする。また、学生による専門演習のガイダンスを継続して充実させる。	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・諸語初級者クラスの受講者数を指標とする。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックを実施した。英文表記に関する新たな改訂を踏まえ、できる限りの対応を行った。 ・専門演習の履修希望者数は、専門演習Ⅰでは 136 名（対 2020 年度 9%減）であったものの、専門演習Ⅱでは 140 名（3%増）、専門演習Ⅲでは 82 名（2%増）であった。 ・「スポーツ健康学入門」で各コースの特色やゼミの意義について紹介した。 ・卒業研究数については 71 件となり、昨年度の 57 件から 14 件増加した。 ・卒論発表会はオンラインで実施したが、全学年が参加できるよう学習支援システムで周知を図った。卒業研究の抄録集は学部ホームページの HONDANA に掲載した。 ・本年度から開設された諸語の受講者数については、ドイツ語 42 名、中国語 19 名、フランス語 45 名が受講した。なお、ドイツ語については科目担当者からドイツ語授業のチラシを配布している。
		改善策	シラバスにおける今回の変更点については、その主旨等について教授会を通して周知を図る。卒業研究数については、コロナ禍の影響を受けたにもかかわらず増加しており、今後も卒論研究の意義と執筆者の増加に向けて様々な機会を通じて周知を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	質保証委員会によるシラバスチェックは期間内に実施されており次年度より改訂される英文表記にも対応ができています。専門演習Ⅰで履修希望者の減少がみられており、増加への取り組みが必要である。その一環としてスポーツ健康学入門でコース紹介やゼミの意義を紹介するなど対策がとられていることは評価できる。また専門演習Ⅱ、Ⅲで履修希望者の増加がみられることは数年に続く社会情勢を鑑みても評価できる。卒業研究数が 14 件増加し、その抄録集が学部全体で共有できることは評価できる。今年度より開始された諸語の受講者は初年度としては評価できる人数と思われる。	
	改善のための提言	専門演習および卒業研究と執筆をおこなう意義について変化する社会情勢に対応しつつ引き続きスポーツ健康学入門やゼミガイダンスなどを通じて学生に浸透させ、成功体験を共有することが必要である。諸語について受講者の増加に取り組むことが求められる。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む	
	年度目標	オンライン、ハイブリッド授業など様々な授業形態での学生満足度を高める。授業形態にかかわらず、授業相互参観、アクティブラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進す	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		る。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・アクティブラーニングへの取組状況を指標とする
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数は18科目で昨年16科目を2科目上回った。 ・アクティブラーニングについては、コロナ禍で対面授業が十分にできていないが、オンライン授業においては双方向化が進んでおり、チャット機能を用いることでかえって質問しやすい環境も定着化されつつある。 ・学生モニターからは、英語授業は少人数であることから対面の方がよかったとの意見が出た。 ・学生モニターから、実習授業について、対面授業にはない考える良さを感じた反面、体を動かす機会が減ったなどデメリットも指摘された。
	改善策	授業相互参観については、コロナ禍の影響を受けていると思われるが、今後の状況を見極めつつ参観数の増加に向けて教授会等の場で周知を図る。コロナ禍の動向にもよるが、次年度は原則対面授業となるが、仮にオンライン授業が求められた場合に対する受講人数による対面授業実施なども含め対応策を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	現在の社会情勢において授業相互参観数が増加したことは評価できる。アクティブラーニングについてチャット機能を用いることで十分に機能していることは評価できる。社会情勢のためオンライン授業が必要であったが少人数の授業の特性を生かす工夫が課題である。
改善のための提言	引き続き授業相互参観を促進する取り組みを継続させる必要がある。現時点では次年度は原則対面授業の方針であるがオンライン授業で得られた知見を有効に活用することが望まれる。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018年度から開始された新カリキュラムおよび100分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果として「習熟度テスト」により、学習成果の改善を図る。 ・昨年度から導入したELPAによるテストの平均値が2年次で1年次のそれを上回るようにする。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度テスト」 ・2年次のELPAの平均値を指標とする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度テスト」は、学習支援システムのテスト/アンケート機能を利用して実施した。2年生については平均点66点(2019年比+5点)、3年生についてはヘルスデザインコース73点(+12点)、スポーツビジネスコース84点(+12点)、スポーツコーチングコース66点(+15点)であり、実施方法は異なるもののいずれの学年においても上昇した。 ・英語能力別クラス編成を目的とするELPAの平均値は入学前の平均値が570.5であったのに対し、2022年1月では581.6で+11.1点上昇した。 ・学年別累積GPAは、4年生2.55、3年生2.58、2年生2.71であった。2年生では、秋学期の累積GPAは春学期と比し+0.2の上昇がみられた。他学年では大きな変動は見られなかった。なお、コロナ禍の影響を受け、授業の実施方法がオンラインと対面に変更されたり、評価方法が従前と異なったりしたため単純に累積GPAの増減で評価することはできないと考える。
改善策	コロナ禍による授業形態の影響も想定されるが、今後も「習熟度テスト」による評価に加え、累積GPAによる評価も併せて、授業形態に応じた教育成果の改善を図る。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

			英語は能力別のクラス編成が学力向上に効果的であることから、学生モニターによる意見も参考に向上に務める。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見	コロナ禍の影響を受け、授業の実施方法がオンラインと対面に変更されたり、評価方法が従前と異なったりしたため単純に累積 GPA の増減で評価することはできないが、習熟度テスト並びに ELPA の平均値の上昇は評価できる。		
	改善のための提言	引き続き、教育成果は複数の観点から測定・評価することが求められる。今後のコロナ禍の状況を鑑みて、その測定・評価の実施方法を模索することが求められる。学生モニターによる意見をクラス編成、授業内容の改善に参考にできると良い。		
No	評価基準	学生の受け入れ		
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年2名を満たすよう努力し SGU を推進する。		
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。		
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、スポーツ 6/6、指定校 3/10、付属校 27/24、特別入試については A0 で 14/20、トップアスリート 2/0、留学生入試で 1/5、一般入試については共通テスト B 方式/15、T 日程/22、英語外部/5、A 方式/78 となり、合計/185 であった。指定校及び留学生の募集人数は満たせていない。 ・学部パンフレットについては、リメイクに向けて全面的な見直しを行った。 	
		改善策	<p>入試形態ごとの入学後の累積 GPA を追跡し、各入学形態別の募集人員について適正化を図ることにより質保証に繋げる。</p> <p>指定校推薦については、この2年間の実績を踏まえ、指定校を、理系進学校を中心に10校から20校に引き上げる。留学生については、コロナ禍のための入国制限があったため対応は難しい。次年度入試においては、新たに2年次における転編入試験（定員5名）を実施するとともに、5教科6科目型のC方式を導入する。</p>	
		所見	コロナ禍の影響から留学生入試および指定校入試において募集人数を満たせなかったが、定められた募集人数は満たしており、適切であると判断できる。各コース長によって構成された入試制度検討委員会を設け、入試制度について各教員の建設的な話し合いの場を設けた。	
	改善のための提言	今後も募集人数の規定数確保、入試制度の配分の健全化に努めるとともに、指定校入試に関しては、実績や入学者の追跡調査により、指定校の適切な選別のための情報蓄積を望む。2年次における転編入試験については、入試制度検討委員会などを通して今後も継続した制度に関する話し合いが求められる。		
	No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。		
	年度目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。		
	達成指標	年度末の学部専任教員数／年度始めの学部専任教員数を指標とする。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	年度当初の専任教員は16名であったが、前年度からの計画的な採用方針により、10月に教職担当が可能な専任教員1名が補充できている。	
改善策	-			
質保証委員会による点検・評価				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		所見	規定教員数を恒常的に確保するという中期および年度としての目標は、教職担当が可能な専任教員を補充できたということで達成された。10月からという半年遅れのためにA評価にしたのであろうが、S評価相当と思われる。	
		改善のための提言	学部の教育水準を保つために教員をさらに補充する必要があるのであれば、テニユアトラック制度を活用することも1つの方策となろう。	
No		評価基準	学生支援	
6		中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。	
		年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメントなどの相談窓口の明確化 ・学生モニター制度によるグループインタビューの実施 	
		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・グループインタビューの実施 を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムについては、例年通り、学部履修の手引きに明示するとともに、専門演習（ゼミナール）募集要項についても明示している。 ・グループインタビューでは、コロナ禍での授業実施等に関して大学教育の課題として、オンライン授業、語学授業、実習授業などについて2年生を中心に3年生も交えて現状と課題など様々な意見聴取を行うことができた。学部としての今後の対応策が抽出できた。 ・特に、日常生活について、友人と話す機会が減ったこと、教員に直接質問することに困難を感じるなどの課題が抽出できた。 ・学生の抱えている悩みなどに対応する相談窓口については、事務課から教員や学生支援室への取次や随時教員が対応するようにしている。 	
		改善策	・学生モニターにより指摘された事項について、カリキュラム見直しの際の参考とする。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	学生を支援する体制づくりとして、教員のオフィスタイムおよびハラスメント相談窓口の明確化、そして学生モニター制度によるグループインタビューの実施が年度目標に挙げられている。いずれも達成され、さらにグループインタビューから課題を抽出し、今後それらを解決しようとしているのでA評価で妥当と思われる。	
	改善のための提言	対面と同等あるいはそれ以上の教育効果をもたらすオンライン授業をカリキュラムの中で明示しておくことも学生を支援する体制づくりになろう。教員に容易に質問できる仕組みを学習支援システム内などにつくり、学生に周知することも方策となろう。		
No		評価基準	社会連携・社会貢献	
7		中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進	
		年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす	
		達成指標	社会貢献・社会連携に関わる <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目数 ・科目履修学生数 を指標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	社会貢献・社会連携に関わる教育としては、理論と実践の視点から、授業内容を踏まえ7科目である。スポーツクリエーション論、地域スポーツ経営論、スポーツ社会学、スポーツジャーナリズム論（放送）、スポーツ政策論であり、受講者はそれぞれ77、78、185、72、64名であった。「健康増進施設実習」は23名が履修した。また、「多摩地域形成論」には55	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		名が受講した。
	改善策	次年度はカリキュラム改革が予定されており、社会貢献・社会連携に関わる科目や教育の場については合わせて見直しを図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	社会貢献・社会連携に関わる教育の場として、7科目が挙げられている。場を増やすことが年度目標とされているため前年度との比較が求められるが、科目の広がりがあり、現場に実習に向向いている。加えて科目数、受講者ともに社会貢献を学生に気づかせるためには十分とみなされるのでA評価で妥当と思われる。
	改善のための提言	次年度からの中期目標に社会貢献・社会連携を含めるのであれば、まず教員にその旨を周知し、それを目的とした授業科目にマークをつけるなどすることも学生の社会貢献につながるだろう。

【重点目標】

専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修希望者数を増加させる。

【目標を達成するための施策等】

- ・初年次研修の「スポーツ健康学入門」において、各コースの研究・教育について紹介する。
- ・学生による専門演習Ⅰのガイダンスを充実させる。
- ・卒業研究の抄録集を学部生全員に配布する。
- ・2,3年生に卒業研究発表会への参加を促す。

【年度目標達成状況総括】

昨年度からのコロナ禍が継続しているものの、感染者が減少した秋学期については、大学全体の授業実施方針を踏まえつつ、対面授業が効果的とされる実技科目やゼミについては感染対策を十分に心がけ、1クラス50人という人数制限（もっとも緩和された状況下にあつては100人未満）により対面授業可としてきた。また、達成目標について、厳しい状況下ではあったものの、一定の学習成果が得られたことや卒業研究数の増加など掲げた目標は達成されたと考えられる。これは、コロナ禍が始まって以来の前年度からの蓄積の成果である。来年度はカリキュラム改革の年にもあたることから、これまでの成果や課題を踏まえ、より一層学生に達成感が得られるよう取り組んでいきたい。

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

スポーツ健康学部における2021年度目標に対するその達成度は概ね良好と評価できる。2021年度は2018年度に始まったカリキュラムの完成年度になり、その成果の検証が望まれる。「習熟度テスト」や学生モニター制度が活用できたこと、授業相互参観数の改善、卒業研究数の増加が得られたことは評価に値する。対面授業が効果的とされる実技科目やゼミについては感染対策を十分に心がけ、人数制限により対面授業が実施できたことは同学部の性格上、その意義が大きいとうかがわれる。2021年度重点目標の達成度に関しては今後その検証が望まれる。教員組織については、2021年度10月に教職科目が担当可能な専任教員が補充できたことは評価できる。COVID-19の影響により、指定校入試と留学生入試の募集人数を満たせなかったが今後の対応が期待される。

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2018年度に始まったカリキュラムが2021年度に完成年度を迎えたため、授業科目のスリム化計画の検討とともに、カリキュラムの改善に向けて、見直しを図る。見直しに当たっては、学部独自資格科目などへの対応や総合科目、専門科目の配置などについて、優れた人材の輩出を基本としながら進める。なお、(公財)日本スポーツ協会の公認資格アスレティックトレーナー養成のためのカリキュラム見直しが同時期に予定されており、本学部のカリキュラム編成にも影響が少なくないことから、改訂作業は2022年度から2年間かけ、諸条件を整えたのち2024年度から改訂されたカリキュラムを実施する予定である。また、卒業研究の履修を通して創造性教育を推進する。
	年度目標	・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修を促す。専門演習Ⅰの履修は1年次に希望を出すので1年次開講の「スポーツ健康学入門」の各コースの教育・研究の紹介時に履修のメリットが理解できるようにする。また、学生による専門演習のガイダンスを継続して充実させる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックを通して内容の妥当性を検証する。 ・カリキュラムの改訂作業については進捗状況について適宜報告する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・諸語初級者クラスの受講者数を指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	スポーツ健康学部は学部の性格上、実技科目が多いが、オンライン授業であっても対応できるよう取り組むほか、アクティブラーニングなど学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む
	年度目標	オンライン、ハイブリッド授業など様々な授業形態での学生満足度を高める。授業形態にかかわらず、授業相互参観、アクティブラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・アクティブラーニングへの取組状況を指標とする
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果は、状況によりオンライン授業での測定も必要であり、今後授業形態の多様化を踏まえ、複数の観点から測定・評価していく。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果として「習熟度テスト」により、学習成果の改善を図る。 ・昨年度から導入した ELPA によるテストの平均値が2年次で1年次のそれを上回るようにする。 ・累積 GPA により評価する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度テスト ・2年次の ELPA の平均値を指標とする。 ・累積 GPA
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度に準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力するとともに質の確保に努める。留学生の募集人数の確保により SGU を推進するとともに、指定校制度を活用した学生の受け入れを推進する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。また、新たに転編入試験を実施する。 ・指定校制度における指定校を増加し、幅広く志望者を募る。 ・留学生の募集人数を満たす。
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保するとともに、各コース・科目への偏りのない人員配置に心がける。
	年度目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。各コースに偏りのない人員配置に心がける。
	達成指標	年度末の学部専任教員数／年度始めの学部専任教員数を指標とする。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメントなどの相談窓口の明確化 ・学生モニター制度によるグループインタビューの実施
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・学生モニター制度によるグループインタビューの実施

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		を指標とする。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会との繋がりや社会貢献を意識した教育の推進。
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を提供するとともに内容の充実を図る。
	達成指標	社会貢献・社会連携に関わる ・授業科目数 ・科目履修学生数を指標とする。
<p>【重点目標】 専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修希望者数を増加させる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次研修の「スポーツ健康学入門」において、各コースの研究・教育について紹介する。 ・学生による専門演習Ⅰのガイダンスを充実させる。 ・卒業研究の抄録集を学部生全員に配布する。 ・2，3年生に卒業研究発表会への参加を促す。 		

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

スポーツ健康学部における中期目標および年度目標は適切に設定されており、達成指標も具体的に示されている点は高く評価できる。2018年度に始まったカリキュラムが2021年度に完成年度を迎えたため、今後授業科目のスリム化計画、日本スポーツ協会の公認資格アスレティックトレーナー養成のためのカリキュラム見直しに連動した同学部でのカリキュラムの見直しなどは中期目標としてその対応・実施が期待される。専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修希望者数を増加させるといふ2022年度重点目標やその目標を達成するための施策等も具体的に設定されていると評価できるが、昨年度と同様に今後もその成果の検証が望まれる。学生の受け入れについては指定校入試や留学生入試において募集人数の確保が期待される。学生支援については、今般のCOVID-19の影響による学習上の悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりも期待される。

【大学評価総評】

スポーツ健康学部の自己点検・評価は適切に実施されていると評価できる。COVID-19への対応・対策を工夫しながら、基礎教育及び専門教育について質の高い教育が継続できたことは評価に値する。特に、実技科目について感染対策に十分配慮した上で対面授業が実施できたこと、所属教員の感染症対策に対する専門性を学部教育方針に活かしたことは特筆に値する。今年度に「習熟度テスト」や学生モニター制度が活用できたこと、授業相互参観数の改善、卒業研究数の増加が得られたことも評価に値する。なお、同学部の教員や学生による社会貢献・社会連携に関する取り組みは大変優れていると評価できる。学生の受け入れについては、最近入学定員充足率が適切に管理されているものの、COVID-19の影響により指定校入試と留学生入試の募集人数を満たせなかったため、今後の改善が望まれる。学生の国際性の涵養のために、海外から外国人教員を招聘し、オンラインで授業を行ったことも評価に値するが、次年度以降は学生の短期留学実施に向けての準備が望まれる。教員組織についても、適切な人事が行われており、今後はさらにFD活動を充実させて、研究・教育において更なる質の向上を図ることが期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。